

4 共生・協働のむらづくり実践事例の紹介

「『天ガラもん』で新たな交流を生み出す！」

やえ
八重地区（鹿児島市郡山町）

背 景

八重地区は、鹿児島市郡山町の国道328号線沿いの入来峠付近にあり、桜島や錦江湾を一望できる絶好のロケーションを有しており、甲突川の源流で平成20年6月に「平成の名水百選」の認定を受けた甲突池があるほか、その湧水が急傾斜地に広がる「八重の棚田」を潤すなど、豊かな自然に囲まれた中山間地域である。

これまでも棚田での米作り体験やそば打ち体験など、都市・農村交流が活発に行われているが、65歳以上の住民が4割を超え、地区内に空き家も見られるようになり、集落機能が低下しつつあることから、NPO法人と連携し、広く町内から人材も求め、都市住民との新たな交流活動に取り組むこととした。

活 動 内 容

1 むらづくり人材の育成

八重地区の歴史・景観等について、地域住民が案内人になれるように、地元高校生と連携した「おもてなし研修会」や「郡山の景観・地質講座」を実施した。



おもてなし研修会

2 キャラクターにより地域イメージづくり

地域に伝わる「天ガラもん」をシンボルとした地域イメージづくりに取り組み、これまで農村に足を運ばなかった若年層へのPR手段として交流イベント等で活用した。



「天ガラもん」のキャラクター

共生・協働の状況

「地理・歴史・自然をまなび、まちづくりを考える」をキーワードに、鹿児島で育まれた文化を通して地域が豊かになることを目的として活動している「NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会」と連携・協働して、むらづくり活動を展開した。

また、地元高校生が「天ガラもんウォーキング」など各種イベントにボランティアとして参加しているほか、平成26年からはタウン情報誌と連携して、「八重山音楽祭&かごんマルシェ」を開催した。

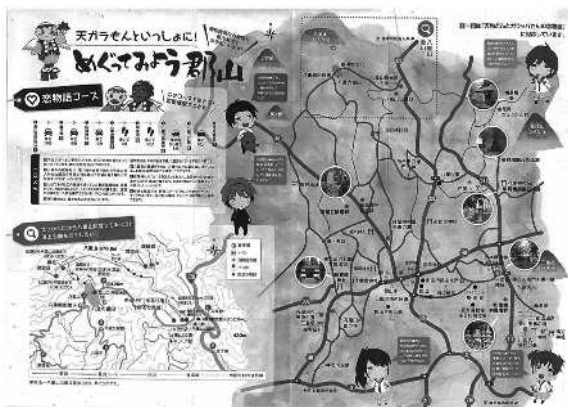
成 果

「天ガラもん」キャラクターをむらづくりイベントに活用しており、「天ガラもんウォーキング」は、地元高校生や家族連れといった新たな交流世代が参加し、大賑わいとなっている。



天ガラもんウォーキング

また、これらのイベントを通じて地域を知った方々が、いつでも足を運べるように、八重地区の歴史・文化・景観を学び楽しめる集落散策マップ「天ガラもんといっしょに！めぐってみよう郡山」を作成した。その作成過程では、地域資源の再発見や地域活性化につながるアイデアも生まれた。



完成した集落散策マップ

今 後 の 展 望

「天ガラもんウォーキング」や「八重山音楽祭」等のイベントを、集客につながる工夫を

凝らしつつ、継続実施することにより、八重地区を地域内外に広くPRしていく考えである。

リーダーの感想

こいやま八重の会

会長 末吉 勇氏



むらづくり活動を通じて、八重地区を訪れる人々が徐々に増加していると感じます。

イベントに参加してくださる方々が、その後も日常的に足を運んでいただけるような地域づくりを目指していきます。

地 区 情 報

構成集落

峠集落、八重集落（2集落）

人口構成

- (1) 総人口 89人
(65歳以上の割合 43.6%)
- (2) 総世帯数 39戸
(うち農家戸数 34戸)

耕地面積 15ヘクタール

主要作物 水稻、野菜、さつまいも

問い合わせ先

鹿児島市農政総務課

電話番号:099(216)1334

鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号:099(805)7273

「住む人も訪れる人も癒しと活気を感じる養母の郷」

もとようぼ しもようぼ
元養母・下養母地区（日置市東市来町）

背 景

日置市東市来町の元養母地区と下養母地区は、同市北西部に位置する中山間地域である。

いちごやソリダゴ等の施設園芸を経営の柱とした認定農業者も育成されている一方で、地区内に広がる約56haの水田は区画が小さく、水稲は小規模な兼業農家を中心に作付けされているため、農業機械への過剰投資が行われたり、農業従事者の減少により、先祖代々受け継がれてきた農地の荒廃が懸念される状況となってきた。

また、少子高齢化が進む中、地区の活性化に向けた取組が必要となった。

活 動 内 容

1 地域営農への取組

このような状況を打破しようと、地区内での話し合い活動や先進事例研修を重ね、平成19年度に、農用地利用改善団体と併せて、水稲を中心とした農作業受託を行う「養母営農生産組合（現在の組合員29名）」を設立し、集落営農の取組を開始した。

農作業受託については、組合員が個人所有する農業機械を利用しながら、高齢農家の田植えや稲刈り作業等を引き受けていくこととした。

2 地域活性化への取組

少子高齢化が進む地区を盛り上げようと、平成25年から養母営農生産組合が中心となって「ホタルの郷の夕べ」と「養母の郷ふるさと祭り」を開催している。

共生・協働の状況

集落営農の展開に当たっては、JAや市・県の支援のほか、中山間地域等直接支払制度の集落協定の活動とも連携をとっている。

また、各イベントの実施に当たっては、元養母・下養母各自治会が協力している。

成 果

「養母営農生産組合」では、主食用米の農作業受託に加え、地元焼酎メーカーと連携した加工用米（焼酎麴用米）づくりに取り組み、平成26年産の面積が約4.4haまで拡大した。

「ホタルの郷の夕べ」や「養母の郷のふるさと祭り」では、その準備・運営の過程で地区住民の絆が深まるとともに、地区外からも世代を超えた大勢の方々が来場され、都市・農村交流につながっている。



「ホタルの郷の夕べ」ミニコンサート
（平成25年：1回目の開催）

平成26年の「ホタルの郷の夕べ」では、地元住民が協力して、ペットボトル灯籠を手作りし、幻想的な雰囲気感動の声が上がった。



「ホタルの郷の夕べ」住民手作りの灯籠
(平成26年：2回目の開催)

「養母の郷ふるさと祭り」では、地元産の農産物販売や、地区住民が地域活性化のために制作した「養母の郷めしませ音頭」等で、大賑わいとなっている。



「養母の郷ふるさと祭り」地元産農産物の販売



「養母の郷ふるさと祭り」皆で輪になって踊る

今後の展望

養母営農生産組合の法人化に向けた検討を進めるとともに、各イベントも継続実施し、むらおこしに貢献していく考えである。

リーダーの感想

養母営農生産組合

組合長 住吉 伸一氏



少子高齢化が進む中、養母営農生産組合が中心となって、集落営農やむらおこしイベントに取り組んだことにより、地域の絆が深まるとともに、地域外から訪れる方々に元気をもらう場面も多くなりました。

地区情報

構成集落

元養母，下養母（2集落）

人口構成

- (1) 総人口 523人
(65歳以上の割合 49.9%)
- (2) 総世帯数 256戸
(うち農家戸数 88戸)

耕地面積 64ヘクタール

主要作物 水稲，いちご，花き，畜産

問い合わせ先

日置市東市来支所産業建設課

電話番号:099(274)2114

鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号:099(805)7273

「集落ぐるみの6次産業化で活性化」

ふるとの
古殿集落（南九州市川辺町）

背 景

古殿集落は、南九州市川辺町の北東部に位置し、農業が盛んな地域にある。

古殿地区は、昭和57年に設立された「古殿むらづくり実行委員会」を母体に、住民が一体となったむらづくり活動を展開している。

個々の農家の機械への過剰投資などにより、水田営農が行き詰まる中、集落の農地と農業は自分たちで守ろうと、平成17年4月1日に農事組合法人「どんどんファーム古殿」を設立した。

その後、地域資源を活用した経営を展開するため、平成19年に高齢者が中心となった農作業を補完するグループ「若葉会」や地場農産物を活用した商品開発と加工販売を行う女性グループ「どんどんプリティ」を発足させ、活動の幅を広げている。

活 動 内 容

1 高齢者の力を生かした取組

除草や調整作業等の細かい作業は、手間がかかり効率が悪かった。そこで、高齢者が中心となった作業を補完するグループ「若葉会」を結成し、大型機械ではできない管理作業などを行っている。

高齢者の栽培技術や作業の丁寧さで「若葉会」は「どんどんファーム古殿」に不可欠な存在となっている。

2 農産物の加工・販売の取組

平成18年たまねぎが気象災害により小玉となり出荷できなかったため、女性が中心となっ

て、話し合いを重ね、出荷できないタマネギを加工・開発して販売する「どんどんプリティ」を結成し、たまねぎドレッシング、乾燥たまねぎなどを商品化した。また、地元農産物を使った生甘酒や味噌などの商品数も増やし、道の駅を中心に販売している。

加工施設は、旧消防団車庫を手作りで加工施設に改装するなど、コスト低減に努めた。

3 どんどん通心便

県外の地区出身者に旬の農産物や加工品を詰め合わせ、近況報告を記したメッセージを添えた「どんどん通心便」の発送を始め、お中元やお歳暮として利用されている。

4 地域住民の交流

平成25年6月から毎月10日に、加工施設内で「どんどん十日市」を開催し、農産物や加工品を販売するとともに、高齢者や地域住民が集う場として定着している。



どんどん十日市（加工施設）



どんどん通心便

共生・協働の状況

「若葉会」と「どんどんプリティ」は、地域の多様な人材の活躍や雇用の場として提供されており、集落の活性化にもつながっている。

また、次代を担う子供たちに対し、毎年さつまいもの栽培体験活動や小学校の校庭での収穫祭を行うほか、地域の保育所に「どんどんプリティ」の味噌を食材として納入し、子供たちが地域の食を味わう機会を作っている。

成 果

法人の取組により、すべての耕作放棄地が解消され、農地の有効活用が実現されている。

「どんどんプリティ」が商品開発した生甘酒やたまねぎドレッシング、乾燥たまねぎなどの農産物加工品は、道の駅「川辺やすらぎの郷」や「かごしまおいどん市場」などで販売され、好評を得ている。

法人が中心となって取り組む集落営農活動に加工・販売を組み合わせた6次産業化により、農地の利用集積と雇用の場の確保が図られ、地域の活性化につながっている。

今後の展望

集落では、農業をリタイアする人の農地に、法人がさつまいもや水稲を作付けるなど、法人化により農地の貸借や作業の委託が安心してできる体制となっており、今後も貴重な地域資源である農地を有効に利用・保全していく。

高齢者や女性が生き生きと元気に活動できる地域の中で、地元農産物を素材とした新たな加工品の開発や販路の開拓などにより、農業経営の多角化・高度化を図り、農村の所得向上や地域の活性化につなげていきたい。

リーダーの感想

農事組合法人

どんどんファーム古殿

代表理事 中間 幸敏氏



自分たちの住むこの美しい田園風景がいつまでも維持できるよう「自分たちの農地は自分たちで守ろう」を合い言葉に耕作放棄地の解消にも力を入れてきました。

今後は、地域の高齢者向けに地元の農産物を使用した惣菜等を製造・販売する取組や、高齢者同士の交流・憩いの場の提供など福祉向上にも力を入れていきたいと思っています。

地 域 情 報

構成集落

古殿上、古殿下（2集落）

人口構成

- (1) 総人口 290人
(65歳以上の割合 40.3%)
- (2) 総世帯数 141戸
(うち農家戸数 34戸)

耕地面積 36ヘクタール

主要作物

水稲、さつまいも、ブロッコリー、
飼料作物

問い合わせ先

南九州市川辺支所農林水産課

電話番号:0993(56)1111(代)

南薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号:0993(52)1342

「耕作放棄地の解消と6次産業化への取り組み」

ながた
永田地区（南九州市川辺町）

背 景

永田地区は、南九州市川辺町の西部に位置し、さつまいも、そば等の生産が盛んな地区だが、農家の高齢化や不在地主等により耕作放棄地の発生が課題となっていた。

そこで、地区内の永田西集落の有志が、隣接する古市集落の農業者にも働きかけ、耕作放棄地の再生・利用と集落営農に取り組むことを目的として「永田農地利用組合」を平成21年4月設立した。

その後、高齢者等からの農地の受入れと、環境保全を含めた地域活性化を目指し、平成26年1月に「農事組合法人ハートフル永田」を設立し、地域の課題解消と活性化に取り組んでいる。

活 動 内 容

1 耕作放棄地の解消と経営拡大

組合では、平成22年度に耕作放棄地解消事業を導入し、集落周辺の耕作放棄地を地主と組合で利用計画等の調整をしながら再生し、地域特産であるそばやでん粉用さつまいもの生産に取り組んだ。

また、耕作放棄地の解消と合わせて、高齢者等から農地を借り受けたことにより、2.2haで栽培を開始したでん粉用さつまいもは、その後、面積が年々拡大し、26年産は3.8haとなるなど、組合の経営拡大と就労の場の提供が確保されている。



耕作放棄地の解消風景

2 そばを使った6次産業化

耕作放棄地等で生産された玄そばは、県内のそばチェーン店に契約販売するほか、地元製粉業者と連携して製粉したそばは、川辺やすらぎの郷やおいどん市場、鹿児島ふるさと物産館などの直売所のほか、地元Aコープ等で販売しており、組合の安定した収入源になっている。



荒れ地解消後に植え付けたそばの刈り取り作業

共生・協働の状況

そばの生産・販売については、新たにそば生産組合を立ち上げ、栽培管理を徹底するとともに

に、地元製粉業者等と連携して加工や販路確保に取り組んでいる。

また、特産のそばを地区子供会等と一緒に播種し、収穫後はそば打ち体験を行うなど、地区住民の交流の場としても活用している。



そば播種（地区子供会）

成 果

平成22年調査では2.1ha あった耕作放棄地のうち2年間で1.6haを再生し、そばの生産を中心とした営農が定着している。

そのほか、でんぷん用さつまいもの栽培についてもリタイアする農家からの農地を利用して経営規模の拡大が図られており、農業後継者の育成や働く場を提供し、地域活性化の一躍を担っている。

今後の展望

残りの耕作放棄地0.5haについても、これまでの活動を継続・発展させ、耕作放棄地ゼロを目指していく。

また、そば等の農産物を活用した6次産業化についても、話し合い活動を継続しながら近い将来に、そば食堂の開設を目指していく。

この地区は、基盤整備率が低いことや茶園が点在していること等から、農地の集積が困難で

あるが、離農者の農地を借り受けながら経営規模の拡大を図っていきたい。

リーダーの感想

農事組合法人 ハートフル永田

代表理事 西 次雄氏



農業者の高齢化に伴い荒廃地が生じないように、今後も集落営農活動を継続するとともに、今後は農業後継者の育成や農業未経験者の受け入れも取り組みます。

また、地元で収穫されたそばをそば粉として販売するだけでなく、6次産業化による地域の活性化を目指して、農事組合法人としてさらに飛躍していきたいと思っています。

地域情報

構成集落

永田西，古市（2集落）

人口構成

(1) 総人口 472人

(65歳以上の割合 29.7%)

(2) 総世帯数 194戸

(うち農家戸数 23戸)

耕地面積 22ヘクタール

主要作物 そば，でん粉用さつまいも

問い合わせ先

南九州市川辺支所農林水産課

電話番号：0993(56)1111(代)

南薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0993(52)1342

「農作業の受託で地域営農の維持へ」

ふじもと
藤本地区（薩摩川内市樋脇町）

背 景

藤本地区は、薩摩川内市樋脇町南部に位置し、水稻を中心とした水田地帯であるが、高齢化や兼業化の進行により、地域の農業生産活動の維持が困難になってきた。

そこで、ほ場整備を行った上で、平成10年に地域の農業者10戸で藤本農作業受託組合が設立された。

平成18年からは、地区住民全員による集落営農検討会を開催し、同組合の法人化に向けた検討を進め、平成20年に地域農業の維持・発展を目的とした「農事組合法人藤の郷」を設立した。

活 動 内 容

1 水稻の農作業受託

「藤の郷」は、現在、地域の農業者18名で構成され、耕耘、田植え、防除、収穫、乾燥などの水稻の農作業を延べ77haで受託している。

組合は、地域住民の合意によって設立された経緯もあり、委託面積も順調に拡大して現在に至っている。



水稻の受託作業

2 地域との連携

藤本活性化実行委員会が開催する「ふじもと棚田米づくり&田園ゴルフ大会」での農作業指導等や地域初の取組となった「暮れの市」（12月21日開催）での天日干しの新米販売などを行うなど、地域イベントにも積極的に協力している。

さらに、他地域からの団体の視察研修の受入なども行っている。



「ふじもと棚田米づくり」への協力



「暮れの市」での新米販売

共生・協働の状況

農業機械では作業できない育苗用箱への播種や田植え・稲刈りなどの補助作業を補助員として地域の方に協力してもらう体制を取っており、補助員の半分は女性であるなど、男女協働して集落ぐるみで地域営農の継続に取り組んでいる。

成 果

受託面積は、平成10年の収穫6.3haから平成25年には田植え10ha、防除45ha、収穫22haと大幅に増加した。

このことにより、地区内の遊休農地の解消につながっていると同時に、高齢・兼業農家でも稲作を継続できるようになり、新たな耕作放棄地の拡大防止につながるなど、地域農業の維持・発展に寄与している。

また、平成26年11月には、薩摩川内市産業祭&JAフェスタにおいて、組合の地域農業への貢献が認められ、薩摩川内市優秀産業家等の表彰を受けた。



薩摩川内市優秀産業家等の表彰

今 後 の 展 望

今後も、高齢者等の農作業を受託し、地域農業が継続できるよう取り組んでいきたい。

そのためには、耕作放棄されている農地や農業機械が入らない小規模ほ場への対応や担い手農家等への農地集積について検討を進める計画である。

また、平成26年は、若手3名が組合に加入し、18名体制となった。今後も地域と連携しながら若手の参画を得るなど、持続的な組合運営に取り組んでいきたい。

リ ー ダ ー の 感 想

農事組合法人藤の郷

代表 仙名 秀松 氏



農作業の受託をしていてうれしいことは、農家の方々の感謝の笑顔を見ることです。

反面、苦勞していることは、組合員の作業ローテーションづくりです。組合員の半数が会社員と兼業農家のため、受託作業が休日に集中してしまうため、不公平にならないよう細心の注意を払ってローテーションを作成しています。

日頃から、人の話を聞き、話し合いを重ね、理解を深めながら意見の統一を図るよう心がけ、良き指導者として組合を引っ張っていきいと考えています。

地 区 情 報

構成集落

大平, 上藤本, 草木段, 菖蒲ヶ段(4集落)

人口構成

(1) 総人口 213人
(65歳以上の割合 55.4%)

(2) 総世帯数 76戸
(うち農家戸数 60戸)

耕地面積 33ヘクタール

主要作物 水稻

問合せ先

薩摩川内市農政課

電話番号:0996(23)5111(代)

北薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号:0996(25)5530

「地場食材を活用した農産加工で地域活性化」

やました
山下地区（阿久根市）

背 景

山下地区は、阿久根市東部の中山間地域にあり、小規模兼業農家が中心の水田農業を行っている。

他地域と同様に、山下地区も高齢化が進行し、近年は耕作放棄地や鳥獣被害も増えてきて、農地の保全や営農の継続が課題となっていた。

そこで、平成24年7月に山下地区の有志住民10戸で地域活性化を目的とした「しろやま会」が発足した。

活 動 内 容

1 地域活性化のビジョンづくり

まず、集落営農塾に参加して、話し合い活動について研修を実施した。

その後、話し合いを重ねながら、地域の現状や課題の整理を行い、その結果を基に地域活性化のビジョンとして取りまとめ、「しろやま会」の活動内容を決定した。

2 活動のスタート

ビジョンの実現に向けて活動を始めるとあたり、活用可能な補助事業等について市農政課等と検討したが、活動に合致する事業等がなかったため、話し合いの結果、加工部で地元農産物を使った加工活動から進めることにした。

3 味工房「やました」の設立と活動

加工部は、加工活動を始めるとあたり、県内の加工施設の視察や農業大学校での加工技術の研修を受講したほか、専門家のアドバイスを受け、平成24年10月に味工房「やました」を発足させた。

味工房「やました」では、たけのこや餅米などの地元食材を使って、佃煮やお団子などの加

工品を製造している。平成25年4月には、地元の新鮮野菜や惣菜などを販売する「桜祭り」というイベントを初めて開催し、多くの地域住民で賑わった。なお、加工場は、メンバーの出資で整備した。

4 生産活動の活性化

味工房「やました」の活動を契機に、営農部では弁当の食材として、地域の休耕地を利用した水稻栽培が始まった。



味工房「やました」加工場

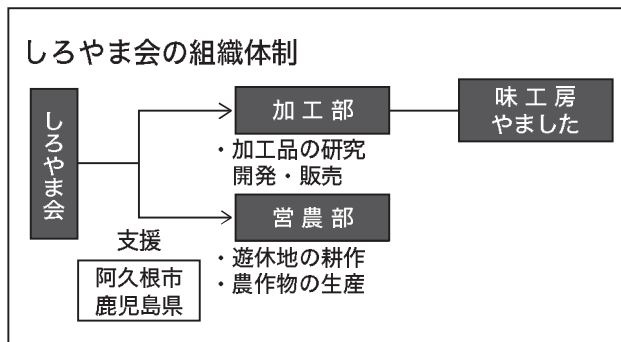


「桜祭り」イベント

共生・協働の状況

しろやま会は、自治会の有志が設立した組織であり、地域の方々の協力を得ながら活動している。中でも、しろやま会が主催する4月の「桜まつり」は、地域住民も参画したイベントとして賑わっている。

また、味工房「やました」の弁当メニューの開発に当たっては、専門家であるNPO法人食育研究会らく楽教室のアドバイスをもらった。



成 果

味工房「やました」の設立により、地域の女性農業者や高齢者の活動の場ができ、地域の病院や企業からの注文による弁当づくりや「桜祭り」などを通して、世代間交流の場になっている。

また、味工房「やました」の活動には、弁当の食材として、地域の高齢者が栽培した野菜等も食材として活用しており、高齢農家の生きがいにもつながっている。



休耕地を利用した水稻栽培

今 後 の 展 望

しろやま会は、地域住民参加型の農産物直売所を設置し、地域住民の交流の場を目指す。

その中で、味工房「やました」は、現在進めている弁当・惣菜の加工・販売に続いて、今後は、地域の食材を活用した農産加工・販売を目

指すこととしている。

また、営農部は、地域の休耕地を利用して、米や餅米、野菜等を栽培し、弁当の材料として活用することとしている。

リ ー ダ ー の 感 想

味工房「やました」の主要メンバー3名

味工房「やました」は、しろやま会の取組の第一歩であり、この取組をきっかけに次の取組の実現に向けていきたいと思えます。



地 区 情 報

構成集落 山下馬場（1集落）

人口構成

(1) 総人口 478人
(65歳以上の割合 37.4%)

(2) 総世帯数 230戸
(うち農家戸数 118戸)

耕地面積 10ヘクタール

主要作物 水稻

問合せ先

阿久根市農政課

電話番号:0996(73)1211(代)

北薩地域振興局農林水産部

農政普及課出水市駐在

電話番号:0996(63)3115

「九州最古の駅舎で『おもてなし』と『むらづくり』」

かれいかわ
嘉例川地区（霧島市）

背 景

嘉例川地域は、霧島市の中心の鹿児島空港の近くに位置し、少子・高齢化の進む静かな山間地域である。

地域には、築110年を超え、九州で最も古い木造駅舎の「嘉例川駅」があり、平成15年1月には、地域の呼びかけに行政やJR九州、妙見温泉協会などが協力して「嘉例川駅開業100周年記念イベント」を開催し、多くの来訪者で盛り上がった。

これを契機に、さらに地域を活性化させようと平成16年1月に地区公民館の関係者等で「嘉例川地区活性化推進委員会」を結成し、様々なむらづくり活動に取り組んでいる。



九州最古の駅舎「嘉例川駅」

活 動 内 容

委員会では、「人・出会い・ふれあい」を合い言葉に、駅舎等を訪れる来客者とイベントを通じた交流で地域住民がいきいきと暮らせるむらづくりを目指して、地域の活性化に取り組んでいる。

1 交流施設の整備

委員会発足の同年には、特産品直売所「ふれあい館」と昔の農機具等を展示した「小さな博物館」を開設した。

「ふれあい館」は閉鎖した農協施設を委員会が借り受け、改修したもので、毎週日曜日に営業している。地元農産物の販売のほか、生産者が交代で調理する地産地消の「かれい川山里弁当」の販売や湯茶のサービスで観光客をもてなしている。



直売所「ふれあい館」

2 交流イベント等の開催

委員会では、JR九州などと連携して、四季折々のイベントを行っている。

中でも「山里の恵みと森のお祭り」は、JR九州のウォーキングに合わせて開催し、地域住民による芸能発表や特産品販売、椎茸バーベキュー等で多くの来場者で賑わっている。

3 来訪客の確保

嘉例川駅への観光客を誘致するため、特急「はやとの風」の停車駅になったことを契機に、鹿児島空港と妙見温泉をつなぐ中継点として嘉例川駅に温泉バスを誘致し、現在は1日5便が

運行されている。このように、特急列車と空港、温泉の地域資源を組み合わせ、平日で約100人、休日は約300人の来訪者で賑わっている。



山里の恵みと森のおまつり

共生・協働の状況

委員会の構成員には、地元自治公民館や自治会はもちろん、JR九州や妙見温泉振興会、小学校、PTAなど様々な団体で構成され、各団体の特長を生かしたイベントの開催などが実施されている。

成果

100周年事業の成功をきっかけに、嘉例川駅を地域のシンボルとして地域がひとつにまとまり、JR九州や観光業界などとも連携した地域活性化の取組が始まり、現在では、様々な活動を通じて人と地域に活気があふれている。

今後の展望

「嘉例川駅」という地域資源を活用し、観光客等へ「ふれあい館」などでおもてなしによる都市農村交流を実践してきた。

「ふれあい館」はこれまで順調に運営してきているが、会員の拡大や農産物の安定出荷等を図り、平日も営業できるよう目指したい。

また、観光客等が、再度、訪れたいくなるようなイベントや交流体系づくりを構築することが緊急の課題である。

観光客を迎えるに当たっては、おもてなしの心とともに、自分たちも楽しみながらむらづくり活動を継続していきたい。

リーダーの感想

嘉例川地区活性化推進委員会
委員長 山木 由美子氏



嘉例川駅の開業112年、特急「はやとの風」の停車などから盛り上がったこの活動が続くよう進めていきたい。

また、来訪者と1回限りのふれあいだけでなく、定期的に訪れ、さらに定住したくなるような地域づくりも進めていきたい。

地区情報

構成集落（自治会） 12自治会で構成
人口構成

- (1) 総人口 467人
(65歳以上の割合 50.7%)
- (2) 総世帯数 257戸
(うち農家戸数 109戸)

耕地面積 126ヘクタール
主要作物 水稲, しいたけ

問い合わせ先

霧島市農政畜産課

電話番号：0995(45)5111(代)

始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0995(63)8146

「『そばの里づくり』で地域おこし」

きたやま
北山校区（始良市）

背 景

始良市北山地区は、市の北部に位置し、北山上、北山下、中甕、木津志の4集落からなる、高齢化が進む中山間地域である。

平成20年度から、「北山校区地域活性化委員会」で、地域の自治会や行政と協働で、地域のあり方等について検討を進めてきた。

平成21度には地域づくりに関する意識の共有と、生きがいや楽しみが共感できる地域社会の仕組みを構築することを目的に、「北山校区地域コミュニティ協議会」が設立された。

協議会では、「地域内に人を集め、人口減少に歯止めをかけ、集落の存続と持続的な発展が図れるための地域づくりを目指す」ことを目標に、耕作放棄地の解消、地元食材を利用した「茶いっぺ処北山茶屋」の開設、農産物無人販売所「ふれあい売場」の設置、空き家対策、遊歩道・登山道の整備など、地域が一体となったむらづくり活動を展開している。



「茶いっぺ処 北山茶屋」

活 動 内 容

1 耕作放棄地を活用した北山そばづくり

北山地区は昔から自家用のそば栽培が盛んな地域である。そこで、過疎化が進行する中、平成23年に農業者などで構成する「北山校区そばの里づくり協議会」を立ち上げ、地域ぐるみで耕作放棄地を活用した「そばの里づくり」に取り組んでおり、地区内外の住民が参加するそば収穫体験やそば打ち体験を行うなどの交流活動を実施している。

さらに、北山のそばをもっと楽しめるよう、両協議会が連携して地元の空き店舗を利用した「茶いっぺ処北山茶屋」を平成24年にオープンさせ、本場の北山そばを提供し好評を得ている。なお、北山茶屋の収益は地域づくりに充てられているなど、「そばの里づくり」を中心とした地域活性化が展開されている。



そばの収穫風景



親子でのそば打ち体験

2 空き家の整備による移住の促進

民間アパートを協議会で借上げて賃貸したり、地元で廃屋を改装するなど、校区外から北山地区への移住促進に取り組んでおり、これまで2戸で、4名の子どもを含む計8名が転入・居住し、小学校の存続にもつながった。

また、地域出身の7名のUターンもあり、地域活性化の担い手として期待されている。

共生・協働の状況

協議会に交流イベント部会や自主財源部会を設置して地域ぐるみでむらづくりに取り組む体制を整備するとともに、そばの里づくり協議会やNPO法人、行政機関等と連携して、そばの収穫体験などのイベント等の開催や、オーナー制度による桜の植栽などに取り組んでいる。

成 果

特産のそば生産や茶屋の開設等を通じて、北山そばブランドを地区内外に発信し、交流人口の拡大と自主財源の確保につながっており、自立したむらづくりへの取組がスタートできた。

また、空き家等を活用した移住促進により、定住人口が徐々に拡大し、地域の活性化につながっている。

今 後 の 展 望

地域課題について、できることから解決に向けて共生・協働で取り組んでいきたい。

校区外からの転入居住者を迎え入れる体制を整えとともに、地域出身者が安心してUターンできる環境づくりを進めていく。

また、地域特産品のそばに関する活動を地域ぐるみで取り組むなど、地域活性化策として成果が出ているが、今後は、そばに続く新たな特産品の探求も必要であると考えている。

リーダーの感想

北山校区そばの里づくり協議会

会長 中村 武男 氏



地域の人たちがやる気を起こすような、そんな雰囲気になる「仕組みづくり」に努めています。

行動を起こすことで何かが起きてくる。そんなイメージを描きつつ、地域の動きを発信しながらUターン者や移住者等が定住することに期待します。

地 区 情 報

構成集落

北山上, 北山下, 中甕, 木津志 (4集落)

人口構成

- (1) 総人口 491人
(65歳以上の割合 62.7%)
- (2) 総世帯数 243戸
(うち農家戸数 91戸)

耕地面積 70ヘクタール

主要作物 水稻, そば

問い合わせ先

始良市農政課

電話番号：0995(52)1211(代)

始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0995(63)8146

「住民主役で地域資源を活用した自主財源づくり！」

やねだに
柳谷町内会（鹿屋市）

背 景

柳谷町内会（通称：やねだん）は、鹿屋市の東に位置しており、人口300人程度の小さな農村集落である。過疎化・高齢化の進行に伴い、耕作放棄地や空き家が増える一方であった。

このような状況の「やねだん」を再生させるため、平成8年から、集落全員が一丸となった地域づくりが始まった。

やねだんの地域再生は、地域活動に補欠はいない、全員がレギュラーとして笑顔で“快話”し、常に目配り、気配り、心配りをしながら感動と感謝の町内会を基本に活動してきた。

活 動 内 容

1 休耕地を活用した自主財源づくり

自主財源確保のひとつに、休耕地を活用したさつまいも生産がある。これは、「収益金で東京にプロ野球観戦に行こう」と集落の高校生に呼びかけて平成10年からスタートしたものである。この取組は地域住民全体に広がり、平成14年には1haまで拡大され、その収益金は大切な自主財源となった。また、栽培に使用する堆肥は、土着菌を混入し、土壌改良材としての効果が期待できるものを利用している。

2 焼酎「やねだん」の誕生

集落内は牛や豚の畜産が盛んで、家畜排泄物の悪臭の悩みを解消するために製造を始めた土着菌を土壌改良剤として活用し、焼酎用さつまいもの栽培に取り組み、このさつまいもを使った焼酎「やねだん」が誕生した。

製造は鹿屋市内の酒造会社に委託し、インターネット販売と直販で年間5千本を売り上げ、大きな財源になっている。



集落住民によるさつまいもの植付け

3 とうがらしプロジェクト

韓国との交流をきっかけに、韓国料理に欠かせない唐辛子を栽培し、これをもとにした商品開発が「やねだんとうがらしプロジェクト」として平成25年から始まった。

この取組は、休耕地などを活用して栽培した唐辛子を、韓国企業と連携してパウダー加工し、韓国の「居酒屋やねだん」チェーンへ販売するプロジェクトである。



唐辛子加工による商品

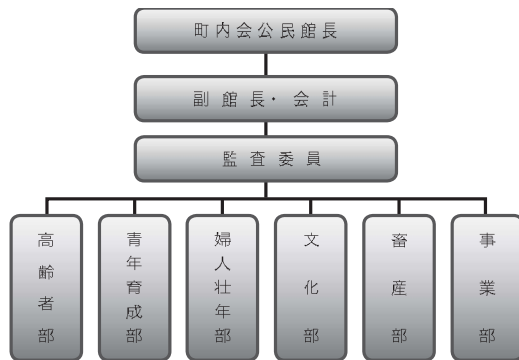
また、唐辛子を使った加工品開発も進めている。平成25年度にはこの唐辛子を使い「ピリッと旨い豚みそ やねだん」をさつま町の農産加工グループ「Helloさつま」の協力を得て商品化し、おにぎりや野菜スティック、焼き肉の他、サンチュ巻きやビビンバなどの薬味として売り出した。現在、インターネットなどで販売されている。

共生・協働の状況

町内会は、高齢者部、青年育成部など6つの部に分かれ、高校生クラブなどとも連携し、自主財源を確保しながら、福祉や青少年教育、環境整備など様々な事業に住民が総力で取り組んでいる。

公民館に設置したリハビリ健康遊具による住民の健康増進や公民館の集落葬活用など公民館のサロン化に取り組んでいる。

また、焼酎づくりやとうがらしプロジェクトの自主財源づくりについては、地域内外の企業や法人と連携して取り組んでいる。



成 果

さつまいもの生産から始まった自主財源による地域再生の取組は、土着菌利用の土壌改良資材、焼酎「やねだん」、さらにとうがらしプロジェクトと常に発展・拡大しており、高齢者もこれらの活動に参加することで元気になっている。

中でも、むらづくり10年目の平成18年には、自主財源の余剰金が500万円に達し、この一部を122戸の集落全戸に1万円のボーナスとして還元できた。



館長から1万円のボーナスが手渡される

今後の展望

集落で栽培した唐辛子の商品化を更に進めるとともに唐辛子の輸出拡大を図ることとしている。

また、全国から年間4～5千人の視察を受け入れていることから、視察者等への大隅地域の魅力発信や交流人口の増加につながるよう、集落のわくわく運動遊園に大隅半島広域観光マップの設置を計画している。

リーダーの感想

柳谷町内会公民館

館長 豊重 哲郎 氏



説得するより納得、口で語るより汗で語り、目立たず、人を引き立てる脇役で黒子が最高です。

高齢者を含む全ての住民が参加する地域づくりは、国づくりにつながります。地域の底力で日本を変えていきたいと思えます。

地区情報

構成集落 柳谷 (1集落)

人口構成

- (1) 総人口 260人
(65歳以上の割合 39.6%)
- (2) 総世帯数 2,146戸
(うち農家戸数 356戸)

耕地面積 120ヘクタール

主要作物

肉用牛, 養豚, 水稻, さつまいも, 唐辛子

問い合わせ先

鹿屋市農林水産課

電話番号：0994(43)2111(代)

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0994(52)2139

「『やまびこ館』を拠点とした地域づくり」

かわかみ

川上地区（肝付町）

背 景

川上地区は、照葉樹林に囲まれた山間の4集落165世帯で構成される地域である。夏季でも冷たい湧水で作られるお米は、美味しいと評判である。また、山間の斜面にはデコポン、ポンカン等の柑橘が盛んに栽培されている。

しかし、当地区は肝付町内でも、特に過疎・高齢化の進んだ地域であり、担い手不足等により、年々耕作放棄地が目立ってきている。

そのような中、川上校区むらづくり推進委員会は、様々なむらづくり活動を展開しており、平成26年度県共生・協働の農村づくり運動表彰を受けた。

むらづくり活動は、川上交流センター・物産館「やまびこ館」を拠点として展開されている。

活 動 内 容

1 川上地区のむらづくり

川上校区むらづくり推進委員会は、地域ぐるみで、耕作放棄地を解消した農地での景観作物やそばの作付け、川上神社遊歩道の整備、伝統芸能「コタコン」の継承など、様々なむらづくり活動を展開している。

また、地区内外との交流活動も積極的に行っており、「やまびこ館」は活動の拠点となっている。



そばを栽培

2 物産館「やまびこ館」の設置

川上中学校の木造本校舎が、平成21年4月に国の登録有形文化財に登録されたことを契機に、住民一体となったむらづくりの気運が盛り上がり、地域住民とむらづくり推進委員会が連携して、地域交流を目的に「やまびこ館」が建設された。

平成23年の川上小学校、24年の川上中学校の休校後は、地域の交流拠点として活用している。

この「やまびこ館」の管理運営は、地域住民と川上校区むらづくり推進委員会が、イベント開催などの協力をしながら管理運営している。

3 物産館「やまびこ館」での活動

「やまびこ館」では、地元産の農産物はもちろん、イノシシ肉や山太郎ガニなど珍しい食材も販売されている。

また、むらづくり推進委員会が中心となった「そば打ち体験交流会」や「ふれあい新米クッキング教室」などの地区内外の交流の場として、各種のイベントに活用されている。



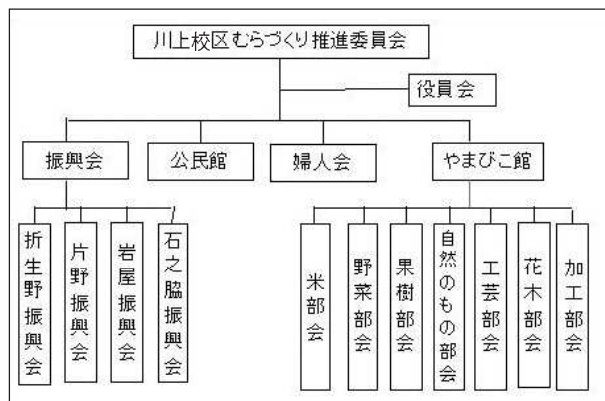
ふれあい新米クッキング教室

4 「やまびこ館」での情報発信

川上地区には「やまびこ館」のほかに、照葉樹林や果樹収穫体験などの豊富な地域資源があり、これらの地域資源と組み合わせたパンフレットやホームページで情報発信し、交流人口の拡大を図っている。

共生・協働の状況

4集落の振興会と公民館、婦人会のほか、「やまびこ館」も構成員として位置づけられており、各組織が連携して地域活動を行っている。



また、地域おこし協力隊員と連携した「踊る地域案内所」の開設や休校中の体育館を利用したアートイベント、地元FM局と連携した情報発信など、多様な主体と協働でむらづくり活動を展開している。

成 果

「やまびこ館」は開設以来、年間1万4千人が訪れ、地区内外の交流拠点としての役割を果たしている。

「そば打ち体験交流会」では、地域のそば打ち名人が先生となり、小学生親子などとの交流を図ることができた。交流を通して、高齢者のやりがいと自信につながるなど、交流会は現在も継続されている。

また、交流会の様子は、地元マスコミ「FMかのや」により広く情報発信することができ、更なる交流拡大が期待される。

「やまびこ館」で行われた新米クッキング教室や新米祭りや秋の収穫祭などのイベントに、町内外から多くの参加者が訪れ、地区のお米のおいしさが評判となり、お米目当てに地区外からも客が訪れるなど、地域活性化に一役買っている。

このように、「やまびこ館」を拠点に、地域が一体となって交流活動に取り組んでいる。

今後の展望

今後は、「新米まつり」等の定番イベントの充実を図るほか、様々なイベントを開催することで、地元農産物や大自然など川上地区の良さをPRし、交流人口の拡大を図りたい。

さらに、移住や定住者の増加につながるよう、地域全体の協力を得ながら活性化につなげていきたい。

また、米のオーナー制度や農村レストランで田舎料理をふるまうなど地域の資源を最大限に活かしたむらづくりを進めていきたい。

リーダーの感想

川上校区むらづくり推進委員会

会長 満留 秀信氏



今後も地域全員で協力し、むらづくり活動に継続して取り組んでいきたいと思えます。

地区の情報

構成集落

折生野、片野、岩屋、石之脇（4集落）

人口構成

(1) 総人口 321人
(65歳以上の割合 48.6%)

(2) 総世帯数 165戸
(うち農家戸数 62戸)

耕地面積 96ヘクタール

主要作物 米、デコポン、タンカン

問い合わせ先

肝付町農業振興課

電話番号：0994(65)2511(代)

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0994(52)2142

「生姜づくりで地域づくり」

なかわり
中割地区（西之表市）

背 景

西之表市中割地区は種子島の内陸部に位置しており、百年前に桜島噴火から逃れた人々が移住して開墾した集落である。急激に人口が減少し、高齢化が進む中で、西之表市から委嘱された「地域おこし協力隊員」が、中割地区の生姜山集落では、その昔、名前の由来である生姜が栽培されていたことを知り、生姜栽培で地域の活性化を図ろうと、住民に提案したことから取り組みが始まった。

活 動 内 容

1 活動の始まり

協力隊員の提案を受け、平成23年度に区長を中心とした地区住民7名で「なかわり生姜山実行委員会」を設立し、耕作放棄地を復元させた交流農園で生姜づくりを始めた。この交流農園のサポーターとして、ボランティアを募集したところ、市街地から30名の参加を得ることができた。



しょうが収穫祭の様子

2 休校を利用した活動拠点づくり

平成13年度から休校となっていた地区の小学校を活動拠点とするため、生姜加工の作業場

に改修したり、従来の学校としての機能である学ぶ場を生かして、生姜を使ったスイーツ作り教室や生姜に関する健康講座「元気を養う学びの場」を開講した。

3 組織の法人化と活動の発展

実行委員会では毎月1日を定例会とし、活動の進捗状況や新たな活動内容について話し合いを重ね、平成24年度には活動を本格化するために「一般社団法人なかわり生姜山農園」として法人化し、「なかわり生姜山農園」の商標も取得するとともに、島外の方々との交流促進や生姜のオーナー制度である「マイジンジャープロジェクト」を開始した。

4 生姜の加工・販売

生姜は無化学肥料や無化学農薬で栽培し、収穫した生姜を加工して、「乾燥しょうが」や地元の紅茶と組み合わせた「しょうが紅茶」、「生姜ジャム」などを製造し、ギフトセット（写真）として販売している。平成25年度には、農園の乾燥生姜パウダーを輸出し、エクアドルでオーガニックカカオと組み合わせて製造されたジンジャーチョコレートを公正取引により輸入し、新商品として販売を開始した。



共生・協働の状況

地域おこし協力隊員の活動がきっかけとなり、地域住民による活動組織の設立・法人化など、

隠れたパワーを顕在化させることにより地域の活気が生み出された。また、農園サポーターとして地区外ボランティアとの交流を図ることができた。一方、各種イベントなどの開催は、過疎高齢地帯であるため、運営側の人員不足が生じることから、地元役場の協力も得ながら実施している。

成 果

生姜の加工作業には地域の高齢者がボランティアバイトとして、社会活動参加へのきっかけとなるとともに、作業後のお茶の時間が交流の場となるなど、生き甲斐づくりにも寄与している。また、地元ラジオやテレビ、新聞掲載などを通じた情報発信により、出郷者や親戚から「頑張ってるね」の声が届き、生産者や地域住民のやる気を引き出している。

市街地や島外の人々と交流を図りながら、地域に由来のある作物の栽培を復活させ、商品化まで行うという過程を短期間で実現できたことを評価され、一般社団法人なかわり生姜山農園は平成25年度全国過疎地域自立活性化優良事例表彰を受賞した。



授賞式の様子

今 後 の 展 望

これからも商品開発・販路拡大などビジネス的な手法を活用した地域おこし事業として、息の長い活動を続けていきたい。さらに生姜の生

産活動を通して、田舎暮らしに関心のある若者の参加を広く呼びかけ、この地域で暮らしたいと願う人々を増やしていきたい。

リーダーの感想

一般社団法人なかわり生姜山農園
代表理事 奈尾 正友 氏



過疎・高齢化が極度に進み、疲弊度を増した地域に地域おこし協力隊が新風を起し、行政及び民間団体等のご支援をいただきながら、歩みを進めてきました。

また、商品開発も進んでおり、島内外のお客様に認知していただき、喜びの輪が広がりつつあります。今後も地域の産業として定着・発展させ、地域活性化の起爆剤として成功させたいと思います。

地区の情報

構成集落 千段峯・生姜山・十六番・万波
(4集落)

人口構成

(1) 総人口 102人
(65歳以上の割合 48.5%)

(2) 総世帯数 62戸
(うち農家戸数 22戸)

耕地面積 22ヘクタール

主要作物 畜産(生産牛)、安納いも、
馬鈴薯、サトウキビ

問い合わせ先

西之表市地域支援課

電話番号：0997(22)1111(代)

熊毛支庁農林水産部農政普及課

電話番号：0997(22)0044

「湯泊集落をいけんかすっかい！！」

ゆどまり
湯泊集落（屋久島町）

背 景

湯泊集落は、屋久島町の南に位置し、65歳以上が約半数と高齢化が進んでいる地域である。高齢化に伴う手入れ不足の果樹園の増加や、鈴岳地区畑かん事業の終了が間近に迫る中で、整備後の農地の有効活用など、今後の湯泊集落が解決すべき課題が山積していた。そこで、平成23年6月に集落の有志15名で話し合い組織湯泊集落「いけんかすっ会」を結成した。



荒廃した果樹園

活 動 内 容

1 ビジョンづくり

話し合い組織の設立後、集落が抱える課題の解決策等について、アイデアを出し合い、農地の管理ルールづくりや新規作物の導入など検討し、その結果をとりまとめた「湯泊集落地域営農活性化ビジョン」を平成24年3月に作成した。

現在、そのビジョンの実現に向け、毎月1回定例会を開催し、具体的な取組内容や進捗状況などについて検討している。



発足当時の話し合い活動

2 具体的活動の展開

集落の農業生産活動の維持・発展のため、集落の営農状況を調査し、地図に整理した。

この中で、農地の有効利用を図るため、平成25年から共同作業で焼酎用さつまいもの栽培を始め、地元酒造会社へ出荷している。現在は、作成した地図を基に農地の維持・管理や、受託組織の結成等について検討を行っている。

また、活動への理解や協力を得るため、これらの活動を年度末に情報紙「湯泊集落いけんかすっ会だより」を発行し、集落全戸に配布している。



営農状況を見える化



みんなでさつまいも収穫調整作業

共生・協働の状況

「いけんかすつ会」の日ごろの活動や情報紙等により、地域での理解が深まり、焼酎用さつまいもの植付や収穫作業などに地域住民が手伝うなど、集落ぐるみの活動に発展しつつある。

成 果

「いけんかすつ会」定例会も回を重ねる毎に会員全員が発言，参画する雰囲気が出てきており，地域課題へ積極的に取り組もうとする姿勢が高まっている。

また，農地マップ作成後，会員で役割分担し，廃園寸前の樹園地の地主へは将来の農地のあり方を個別に聞き取り，今後の対応について検討を進めている。

焼酎用さつまいもについては会員のほとんどが果樹農家であり，さつまいも栽培は初心者であるが，関係機関からの指導助言により，適期作業ができるようになるなど，目標収量達成に向けて改善が図られている。

今後の展望

湯泊集落は，昔から集落に係るすべての事柄をその都度話し合い，集落民の総意に基づき決めてきた歴史がある。どのようにして地域の農

地を荒廃させず，高齢者の営農を支援していくか，また，農地管理のルール作りや受託組織の結成など，地域住民の参加も促しながら，「いけんかすつ会」の取組を進めたい。

リーダーの感想

いけんかすつ会

会長 亀割 義一氏



高齢化率45%を超える集

落で，将来の湯泊農業のために話し合い組織を結成し，現在は11名で約35 aの焼酎用さつまいもを共同作業で栽培している。今後は，新たな作物の選定，経営が困難になった果樹園の対策，土地の流動化問題，6次産業化への取り組み等集落の活性化と存続のため少しずつ前進していきたい。

地区の情報

構成集落

湯泊集落（1集落）

人口構成

(1) 総人口 191人

(65歳以上の割合 47.1%)

(2) 総世帯数 100戸

(うち農家戸数 45戸)

耕地面積 51ヘクタール

主要作物 ぽんかん，たんかん

問い合わせ先

屋久島町農林水産課

電話番号：0997(43)5900(代)

熊毛支庁農林水産部農政普及課

電話番号：0997(22)0044

「水土里サークル活動と集落ぐるみの鳥獣害対策」

かねく
兼久集落（天城町）

背 景

兼久集落は、天城町の中央部に位置し、さとうきびを中心に、ばれいしょやマンゴーなどの栽培が盛んな地域にある。

徳之島では、近年、イノシシやカラスによる農作物被害が拡大しており、集落においても、サトウキビを中心に被害が大きく、個人で畑の周囲に侵入防止ネットや電気柵等を設置しているが効果が薄く、平成24年度の減収量は約140トンに達するなど、地域農業の維持に大きな課題となっている。



イノシシ被害の状況

活 動 内 容

1 水土里サークル活動の取組

兼久集落では「兼久クリーン隊」が平成21年に結成され、交付金を活用しながら126haの畑地や周辺農業施設の保全や環境整備・美化等に取り組んでいる。

2 集落での話し合い

クリーン隊役員や役場職員が中心となり、鳥獣害対策には集落全体で取り組む必要性や住民の共同活動による侵入防止柵の設置について、

集落内で説明会や検討会を重ね、平成25年11月の役員会で集落全体で協力して取り組むことの合意が図られた。

3 鳥獣被害対策の実践

実施体制が整ったことで、作業に参加可能な住民の協力を得て、兼久クリーン隊が先頭に立ち、25年12月から26年1月の約2ヶ月をかけて、兼久集落の山裾に約7,600mの侵入防止柵を設置した。

設置作業については、幅広い住民の参加が得られたことで、各々が得意な作業を担うなど、役割分担しながら効率的に進めることができた。



検討会の様子



防止柵設置作業の様子

共生・協働の状況

「兼久クリーン隊」は、ほ場周辺の環境整備、

美化等を推進するため、水土里サークル活動として農道や水路の保全活動を行っているが、今回の防止柵設置は困難な作業が予想されたため、兼久クリーン隊を筆頭に受益農家にも参加してもらい、集落全体の取組として作業を行った。

成 果

侵入防止柵を集落の山裾に沿って設置することで、山間部と平地部を分断し、イノシシとの棲み分けを行った結果、被害を軽減するとともに、捕獲活動が容易になった。これにより捕獲頭数が平成22年度の74頭から平成25年度の131頭に増え、個体数の減少につながり、農作物の被害がさらに軽減された。

このことは、農家の生産意欲の維持と所得向上につながるものと思われる。



防護策等の設置状況

今 後 の 展 望

今後も、水土里サークル活動の一環として、住民で協力しながら草払い等柵の適正な管理を行い、鳥獣害対策を進めていきたい。

また、遊休農地の発生防止のため農地や農道の環境整備を行うなど、集落の活性化につながるさまざまな課題についても、話し合い活動を続けながら、集落全体で協力して解決に向けて取り組んでいきたい。

リ ー ダ ー の 感 想

兼久集落

区長 盛岡 平一 氏



今回の防止柵設置作業は、大きな困難が予想され、「できるか?」「大変だ」と尻込みしていたが、粘り強い話し合いと参加者の創意工夫により実現できました。

これは、集落全体の取組が必要だという共通認識ができたことが成功の要因と考えています。

今後は、住民と地権者が協力し合って、設置した侵入防止柵が有効に機能するよう、適正な維持・管理に努めていきたいと考えています。

また、他の課題についても、行政と住民の話し合いにより解決に向けて取り組む必要があると思います。

地 区 の 情 報

構成集落 兼久集落 (1集落)

人口構成

(1) 総人口 651人
(65歳以上の割合 32.6%)

(2) 総世帯数 282戸
(うち農家戸数 90戸)

耕地面積 295ヘクタール

主要作物

さとうきび、ばれいしょ、マンゴー等

問い合わせ先

天城町農政課

電話番号：0997(85)3111(代)

大島支庁農林水産部農政普及課

電話番号：0997(57)7265

「農家民泊で新たな島の魅力発信」

よろん
与論地区（与論町）

背 景

与論島は、周囲23km 面積20km²の小さな島で、耕作面積1ha以下の農家が殆どで農家所得が低い地域である。また、昭和50年代の観光ブーム以降観光客の減少に伴い人口も減り、島の経済に大きな打撃を与えている。

そこで、与論町では、島の活性化策として、平成12年から修学旅行の受入れに取り組み始め、現在では、毎年12～14校、2千人以上の修学旅行生を受け入るようになった。この中で、農業や島民とのふれあいを体験してもらおうと、平成18年度から農家民泊による修学旅行の受け入れを行っている。

活 動 内 容

1 農家民泊の修学旅行

与論島での修学旅行は、ホテル等の宿泊施設を利用し、海を利用したマリンスポーツ等のレジャー体験が中心のものであったが、悪天候でマリンスポーツ体験が出来ない場合もあり、対応に苦慮していた。そこで、関係機関や町民などが話し合い、農業体験やお宅訪問等の体験メニューを加え、農家民泊による体験型修学旅行の取り組みがスタートした。

2 受入体制の整備

体験型修学旅行を受け入れるため、農業関係者や観光関係者等で検討を行い、先進地視察や講演会、研修会を開催して、島内住民の理解を深めながら、平成18年度に「ヨロングリーン・ツーリズム協議会」が設立された。

平成21年度には「ゆんぬツーリズム推進協議会」に名称を変更し、検討会や体験施設の整備等を行い、農家民泊の推進や修学旅行の受入れに取り組んでいる。

また、サトウキビ等の試食や磯遊び、星空の下の散策などの与論島ならではの体験メニューにも取り組んでいる。

その結果、平成26年度は、初めて、農家民泊体験を取り入れた修学旅行の受入（1校）を行った。



ゆんぬツーリズム推進協議会の活動風景



入島式の様子

共生・協働の状況

修学旅行の受入体制の整備は「ゆんぬツーリズム推進協議会」が行い、修学旅行の誘致や学校・旅行業者との調整は、「ヨロン島観光協

会」が行うなど、地域と観光業界が連携して取り組んだ。

成 果

「ゆんぬツーリズム推進協議会」の活動を通じて、平成26年度の農家民泊登録件数が17件と年々増加している。

初めて取り組んだ農家民宿体験についても、その後の報告会で、受入農家から「自分の子どもが帰ってきた感覚」「民泊を本格的に取り組むのであれば、年に数回はやりたい」など前向きな意見が聞かれた一方で、受入れに対する負担を訴える意見も聞かれ、今後の課題である。

今 後 の 展 望

受入農家の拡大や体験メニューの充実に取り組む一方で、受入側が負担にならないよう、地域住民と協力しながら、課題を検討し、無理なく続けられるように受入体制を整えていく必要がある。

修学旅行の受け入れを通じて、与論島ならではのグリーン・ツーリズムを提供し、島のファンやリピーターが一人でも増えてくれることを期待したい。

また、島外の人達との交流で、島の魅力を再発見し、地域資源を地域住民でPRすると共に次世代へ継承するなど地域活性化につなげたい。



リ ー ダ ー の 感 想

ゆんぬツーリズム推進協議会

会長 池田 吉光氏



これまで協議会で受入態勢

や指導方法について、調査・研修を積み重ねてきました。この中で、島の観光のあり方や捉え方が大きく変化してきました。単なる観光地めぐりやレジャーだけでなく、島の歴史や文化、暮らしを民泊しながら学ぶことに重点を置いたツーリズムに感動があると確信しました。

島を訪れる人が地元住民との交流で、お互いの心の絆が通じると、長続きすると思います。今回、兵庫県高校生を民泊という形で受け入れることができ、民家の創意と工夫によっておもてなしができたことに感謝いたします。今のところ受け入れ件数が少ないですが今後仲間を増やし取り組んでいきたいと思っています。

地 区 の 情 報

構成集落

茶花、立長、城、朝戸、西区、東区、古里、叶、那間（9集落）

人口構成

(1) 総人口 5,327人
(65歳以上の割合 31.0%)

(2) 総世帯数 2,007戸
(うち農家戸数 845戸)

耕地面積 1,110ヘクタール

主要作物 さとうきび、肉用牛、野菜

問い合わせ先

与論町産業振興課

電話番号：0997(97)3111(代)

大島支庁農林水産部農政普及課

電話番号：0997(57)7265

5 むらおこし団体の紹介

むらおこし団体の紹介

農村の過疎・高齢化が進行し、集落機能の低下が懸念される中、県では、農村環境の保全や地域ぐるみのむらづくり活動等において、NPO法人や大学等の地域外の活力と連携した「共生・協働の農村づくり運動」を推進しています。

県内には農山漁村や中山間地域の地域おこしや都市と農村の交流活動などに取り組むNPO法人等が数多く設立されてしています。

ここでは、むらづくりに取り組んでいる主なNPO法人等を紹介します。

NPO法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会（鹿児島市）

～歴史・地理、自然をまなび、まちづくりを考えるNPO法人として活動しています～

■主な活動内容

- ・史跡めぐりウォークラリーや学習会の開催・運営
- ・まちづくり講演会やフォーラムの開催・運営、鹿児島の魅力案内人育成、生涯学習講座
- ・地域再発見の視点から見た「まちづくり」全般に関わるコンサルティング等

■主な実践事例

- ・〈まち歩き〉川内駅100周年記念～100年の軌跡を辿る薩摩川内まち歩き～
鹿児島交通局・もうすぐ移転記念～大正ロマンと交通局～等
- ・〈委託事業〉明治維新150年関連企画「明治維新と鹿児島みて歩き」HP企画等

■所在地・連絡先

鹿児島市名山町3-9 電話：099-227-5343

ホームページ：<http://www.tankennokai.com>

NPO法人 桜島ミュージアム（鹿児島市）

～桜島をまるごと博物館として捉えた「エコミュージアム」の活動を展開しています～

■主な活動内容

- ・桜島に関する情報（火山、自然、文化、歴史、観光等）の収集・発信
- ・自然・文化体験ツアー（エコツアー）の実施等

■主な実践事例

- ・教育旅行受入プログラムの提供
桜島の農業体験（桜島だいこん、桜島小みかん）
漁業体験（カンパチ餌やり）、椿油搾り体験、溶岩ピザ窯作りとピザ焼き など

■所在地・連絡先

鹿児島市野尻町205 電話：099-245-0100

ホームページ：<http://www.sakurajima.gr.jp>

NPO法人 エコ・リンク・アソシエーション（南さつま市）

～体験型観光の推進で、地域の輝くものを磨き上げて観光に生かすことに挑戦しています～

■主な活動内容

- ・体験型ツアーのプログラム化や体験活動指導者育成
- ・中高校生の体験型教育旅行の民泊受入れのコーディネート
- ・乗馬体験事業

■主な実践事例

- ・農家民泊による修学旅行受入事業および体験活動指導者育成
- ・自然体験教室「薩摩半島自然学校」の開催や木口屋集落〈地球の家〉アートプロジェクト
- ・むらづくり活動の支援（鹿児島市、南九州市、薩摩川内市など）

■所在地・連絡先

所在地：南さつま市加世田本町56-3 電 話：0993-53-7270（FAX 兼用）
ホームページ：http://eco-link.jp/ E-Mail：desk@eco-link.jp

NPO法人 プロジェクト南からの潮流（南さつま市）

～地域の「宝物」を地域の方々と一緒に守り、継承していくための活動へ取り組んでいます～

■主な活動内容

- ・南さつま市並びに周辺住民に対する文化的活動に関する事業
- ・各種イベント等のまちづくりに関する事業
- ・自然とのふれあいを通じた環境保全や社会教育及び子どもの健全育成を図る事業

■主な実践事例

- ・地域資源を活用した都市住民との交流事業（南さつま市長谷地区）
- ・大坂ふれあい館（直売所、レストラン、日用品の移動販売）の開設支援など

■所在地・連絡先

所在地：加世田川畑2770番地32 電 話：0993-52-7829（FAX 兼用）
ホームページ：http://cyouryu.com/ E-Mail：qqpf5ft9k@topaz.ocn.ne.jp

NPO法人 ながしま元気かい（長島町）

～ふるさとの道路の景観保守及び環境保全に寄与する活動に取り組んでいます～

■主な活動内容

- ・花苗の育苗及び長島町の国道、県道沿いの石積み花壇の管理、花苗の植え替え、除草等

■主な実践事例

- ・長島町が実施している「長島町ぐるっとフラワーロード事業」に協力

■所在地・連絡先

所在地：出水郡長島町鷹巣2277-1 電 話：0996-86-0811

NPO法人 ひっ翔べ！奥さつま探検隊（さつま町）

～鹿児島の名言「泣こかい、翔ぼかい、泣こよかひっ翔べ！」の精神で、
鶴田ダム湖を拠点とした水源地域の自立的・持続的な活性化に取り組んでいます～

■主な活動内容

- ・豊かな自然環境や文化，歴史，原風景，風土の再認識に関する事業
- ・子ども達への自然体験・環境学習に関する事業

■主な実践事例

- ・さつま町所有のホタル舟を活用した自然体験及び地域間交流

■所在地・連絡先

所在地：薩摩郡さつま町神子3985-9 電 話：0996-59-2522

NPO法人 Lかごしま（始良市）

～市民活動団体の支援と協働の機会づくりを通じて、共生・協働の地域づくりに努めています～

■主な活動内容

- ・市民活動を支援する活動（パソコン講座，ホームページ及び広報誌等の作成支援）
- ・市民活動の理解促進・普及に関する活動（自治会等への理解促進のためのイベント等の開催）
- ・地域活性化・課題解決支援に関する活動（地域の活性化等のための企画提案）

■主な実践事例

- ・始良市まるごと観光商品開発事業
- ・始良市空き家調査事業

■所在地・連絡先

所在地：始良市池島町20-20 電 話：0995-66-6818

NPO法人 Lab蒲生郷（始良市）

～青少年等に自然や文化，芸術を体験・体感できる場の提供や，
住民参加型のまちづくりを推進して地域社会の発展を目指しています～

■主な活動内容

- ・文化や芸術振興の普及・啓発に関する活動
- ・青少年の健全育成・情操教育に関する活動
- ・国際理解・国際親善を推進する活動
- ・まちづくり推進に関する活動

■主な実践事例

- ・蒲生ふるさと交流館の指定管理者
- ・着地型観光イベント「カモコレ」，「みどりのカモコレ」の実施

■所在地・連絡先

所在地：始良市蒲生町上久徳2241 電 話：0995-52-0115

NPO法人 ローズリングかのや（鹿屋市）

～大隅地域を活動の拠点に、地域に関する理解と知見を活用して地域活性化に取り組んでいます～

■主な活動内容

- ・観光資源の掘り起こしや観光施設の受託運営
- ・地元産業との連携による観光商品の開発など

■主な実践事例

- ・鹿屋市の「かのやばら園」の一部施設の管理受託
- ・「農林水産物」と「かのやのばら」を組み合わせた地域独自の商品開発や地域イメージのPR
- ・大隅地域の農山漁村ツーリズムのPR（大隅地域振興局地域振興推進事業）

■所在地・連絡先

鹿屋市浜田町1250 電話：0994-41-8718

ホームページ：<http://www.kagoshima-kankou.com/guide/51428/preview.html>

NPO法人 ジュントス（西之表市）

～幅広い分野のまちづくり推進活動及びそれに関する交流、支援、情報発信等に取り組んでいます～

■主な活動内容

- ・まちづくりの推進を図る活動
- ・文化・芸術またはスポーツの振興を図る活動
- ・国際協力の活動、保健医療または福祉の増進を図る活動

■主な実践事例

- ・西之表市上西校区のむらづくり（共生・協働のむらづくり活性化事業）
- ・種子島NPOネットワーク事業
- ・修学旅行誘致活動など

■所在地・連絡先

西之表市市東町7-4 電話：0997-23-2206

ホームページ：<http://www3.synapse.ne.jp/juntos/>

NPO法人 環境福祉サービス（中種子町）

～地域に根ざした高齢者支援サービスの提供とまちづくり及び環境保護を推進しています～

■主な活動内容

- ・環境保全活動（高齢者及び子どもたちによる公共施設の清掃活動など）
- ・まちづくり事業（島内の中高生と「種子島の将来を語る会」を開催）

■主な実践事例

- ・地域の子ども育成会や福祉施設利用者とかかし作りと国道沿いに設置
- ・休耕田での景観作物（ひまわりやフリージア）の植栽
- ・高齢者福祉まつりの実施

■所在地・連絡先

中種子町納官5159番地5 電話：0997-24-8555

NPO法人 すみようヤムランド（奄美市住用）

～地域経済の活性化を目指し、それぞれが誇りを持って語れる持続可能なまちづくりを目指します～

■主な活動内容

- ・自然・文化・人のつながりを地域が持つ財産として受け継ぐための活動
- ・地域の魅力を住民自身の手によって広く全国に向けて発信するための活動

■主な実践事例

- ・住用の隠れ名所発掘
- ・シマの歴史、文化、自然などの勉強会
- ・観光地の環境美化
- ・シマ（集落）歩き体験の企画およびガイド人材育成など

■所在地・連絡先

奄美市市住用町西仲間327 電話：0997-69-2111（代）

ホームページ：<http://yamuraland.com>

NPO法人 いせん1・1（伊仙町）

～「長寿・子宝・癒しの島」として地域活性化の方策を考え、徳之島らしさをPRしています～

■主な活動内容

- ・グリーン・ツーリズムの推進
- ・シルバー人材センターでの農作業支援 など

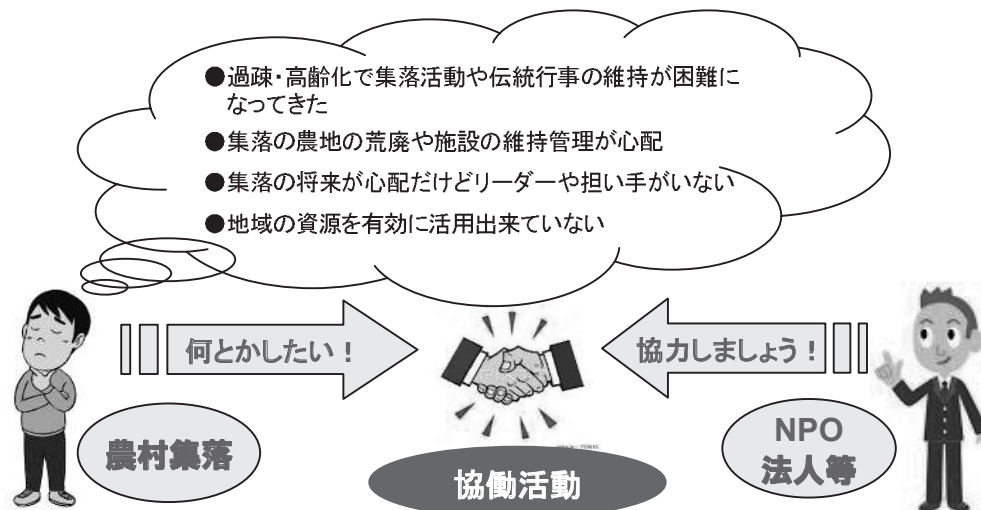
■主な実践事例

- ・伊仙町直売所“百菜”を拠点とした有機農法による安全・安心な野菜の提供
- ・空き家の改修などによる宿泊施設の充実と受入体制の整備
（26年11月に空き家再生ゲストハウス「あむとう」がオープン）

■所在地・連絡先

大島郡伊仙町大字伊仙2593 電話：0997-86-3131

ホームページ：<http://nttbj.itb.ne.jp/0997863131/>



6 県事業の紹介

- ・ 共生・協働のむらづくり活性化事業
- ・ 地域営農の仕組みづくり実践事業

共生・協働のむらづくり活性化事業(平成24年度～)

1 事業の目的

農村集落が大学やNPOなど地域内外の多様な主体と協働して取り組む、地域豊かな自然や伝統芸能、食材などの地域資源を活かしたむらづくり活動を支援

2 事業主体

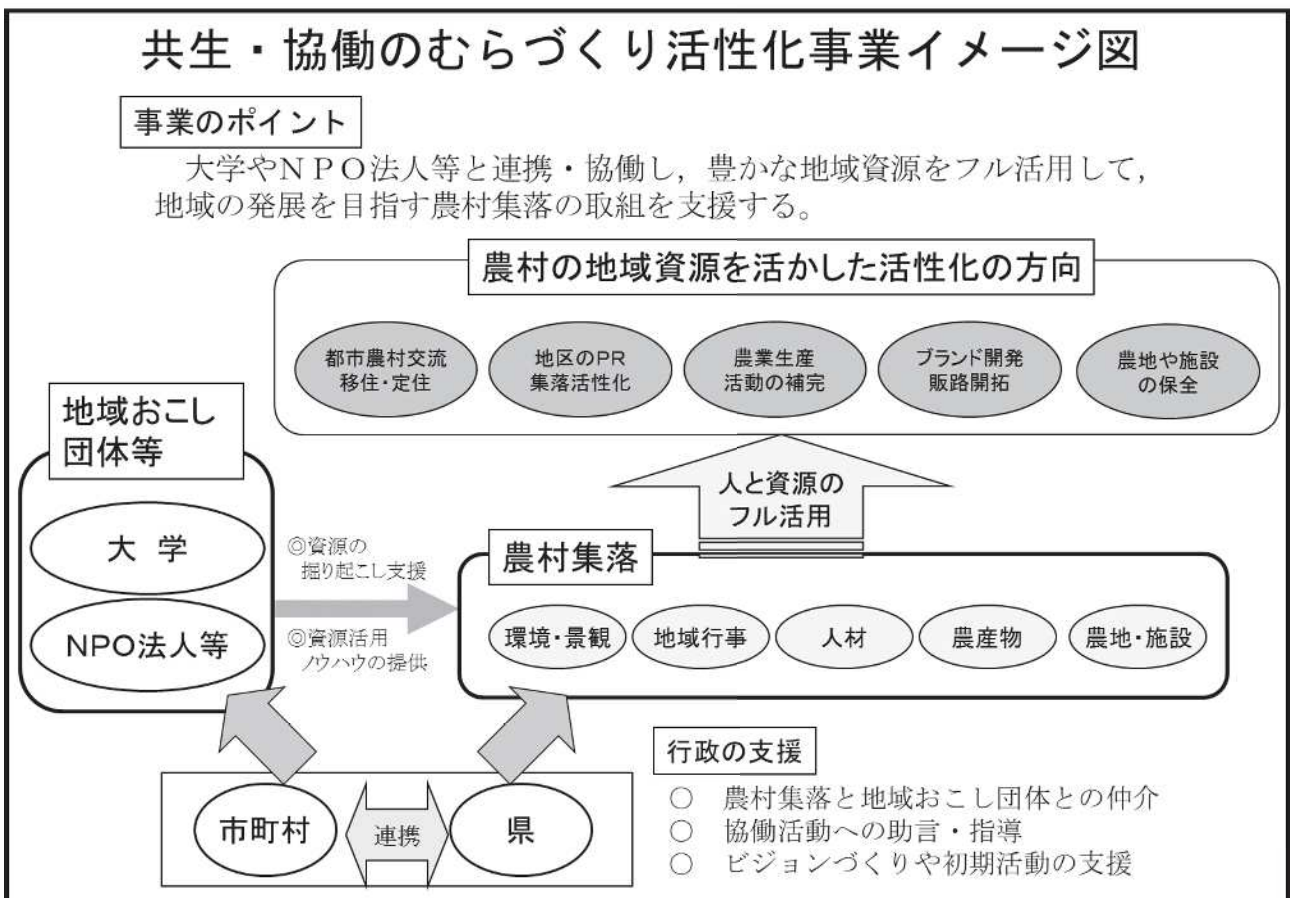
農村集落等

3 補助金および補助率

定額（上限500千円/地区・年），1地区2年間継続

4 実施地区

県内7地区



※地域おこし団体

大学やNPO法人など、農村集落を対象に地域貢献や地域の活性化を目的に活動する団体のこと

共生・協働のむらづくり活性化事業の実施地区（平成26年度～27年度）

農 村 集 落（上段） 地域おこし団体（下段）	主な取組内容
<p>吉田校区公民館運営審議会 （鹿児島市）</p> <p>NPO法人エコ・リンク・ アソシエーション</p>	<p>①地域資源の発掘活動 地域住民や中学生が参加した地域資源の発掘や絵地図の作成</p> <p>②地域案内人（まち歩きガイド）の養成 発掘した地域資源を生かしたまち歩きコース検討と案内人の育成</p> <p>③地域内外との交流促進 伝統行事「鬼火たき」等のイベントの開催等による交流促進</p>
<p>久保地区むらづくり委員会 （南さつま市）</p> <p>NPO法人プロジェクト南 からの潮流</p>	<p>①特産品づくり 耕作放棄地の再生による野菜生産と加工品の製造・販売</p> <p>②都市住民との交流 棚田の復元による農業体験の取組促進と教育旅行受入態勢の充実</p> <p>③伝統技術の継承 炭焼き窯の伝統技法の保存・伝承</p>
<p>せんだい高城温泉よか湯協 議会（薩摩川内市）</p> <p>NPO法人まちづくり地域 フォーラム・かごしま探検の会</p>	<p>①地域食材を活用した食の魅力発信 近隣集落と連携した加工品や郷土料理の開発・販売</p> <p>②地域資源の発掘や活用促進 地域資源の掘り起こしや絵地図の作成，案内ガイドの育成</p> <p>③都市農村交流の促進 新たなPR活動やイベントの開催</p>
<p>上場地区（湧水町）</p> <p>NPO法人 しかごしま</p>	<p>①地域資源の発掘と活用促進 地域資源の発掘とパンフレット等による情報発信</p> <p>②グリーン・ツーリズムの推進 体験メニューの充実による修学旅行の受入拡大と農家民宿開業促進</p> <p>③地域農産物の販売・PR活動の促進 有機農産物を中心とした販売活動の充実とふるさと便の取組開始</p>
<p>宿利原地区公民館 （錦江町）</p> <p>鹿児島純心女子短期大学</p>	<p>①特産品づくり 学園祭等を活用した加工品のニーズ調査および試験販売の実施 特産品開発と加工品の成分分析，パッケージ制作による販売促進</p> <p>②伝統文化の伝承 地域の伝統料理の継承と加工グループの育成 子どもたちへの伝承活動を通じた伝統芸能の継承</p>
<p>葦永地区自治公民館 （南種子町）</p> <p>NPO法人食育研究会らく 楽料理教室</p>	<p>①特産品づくり 赤米を活用した加工品や郷土料理の開発・販売</p> <p>②水稻栽培に関する伝統行事の継承 地域に伝わる食の伝承や伝統行事の継承，リーダーの育成</p> <p>③農業と観光の連携強化 伝統行事保存会と連携したイベントの開催や観光ツアー等の実施</p>
<p>阿室校区活性化対策委員会 （宇検村）</p> <p>NPO法人環境教育推進協 議会</p>	<p>①ニンニクやたんかん等の農業生産活動の維持 在来種にんにくの栽培技術や伝統食の継承 小学生の農業体験イベント等の開催</p> <p>②耕作放棄地を活用した景観作物の栽培 養蜂業者との連携による景観作物等を活用した6次産業化の促進</p>

地域営農の仕組みづくり実践事業（平成24年度～）

1 事業の目的

担い手農家と高齢農家，小規模農家などが話し合い活動を通じて地域ぐるみで取り組む地域営農の仕組みづくりの実践活動を支援

2 事業主体

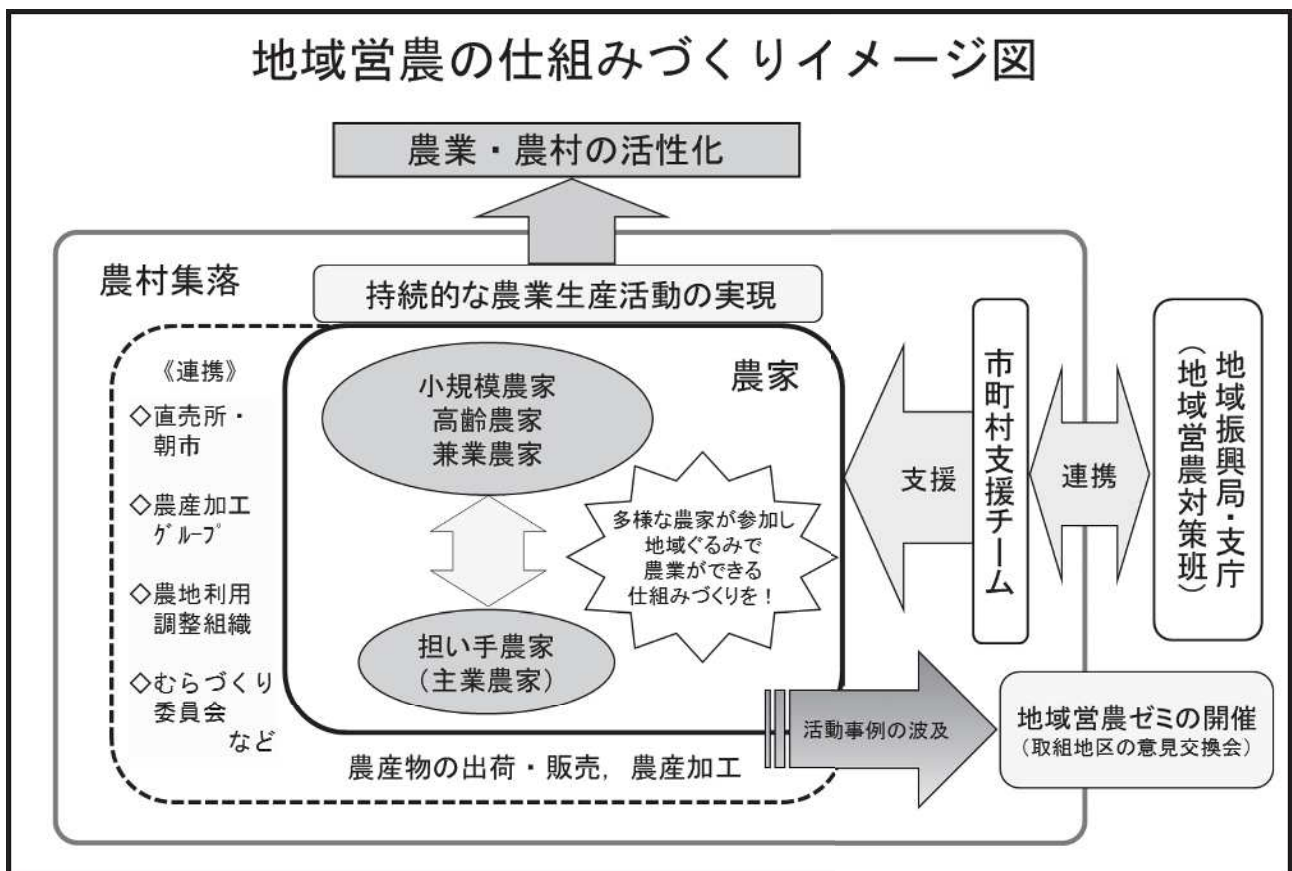
農業者等で組織する団体

3 補助金および補助率

定額（上限100千円/地区・年），1地区2年間継続

4 実施地区

県内7地区



地域営農の仕組みづくり実践事業の実施地区（平成26年度～27年度）

事業実施主体 (市町村)	主な取組内容 (①目標, ②活動内容)
川上営農推進協議会 (いちき串木野市)	<ul style="list-style-type: none"> ①水田営農の確立に向けた高齢・小規模農家も参加する農地利用調整や農作業受委託の体制づくり ②水田営農の意向調査や農地利用改善団体・農作業受委託組織の設立, 裏作物の導入
厚地営農組合 (南九州市)	<ul style="list-style-type: none"> ①水稲の受託作業を中心とした営農組合の活動の充実と地域ぐるみで農地の維持管理を行う体制づくり ②営農組合の活動を周知し, 理解を促進するためのチラシの作成やイベント実施, 先進地視察研修の実施
仮屋原農作業受託組合 (さつま町)	<ul style="list-style-type: none"> ①農作業受委託の作業面積拡大や農用地利用改善団体との連携による地域が一体となった水稲の受委託の体制づくり ②農作業受委託の活動周知や委託農家への意向調査, 先進地視察研修の実施
木ノ氏自治会 (伊佐市)	<ul style="list-style-type: none"> ①水田を中心とした共同作業の推進や集落営農組織の設立など水田営農の確立に向けた体制づくり ②農業機械等の利用実態調査や集落営農組織への参加意向調査等による集落営農組織の設立に向けた検討及び設立, 先進地視察研修の実施
水之上地区三和営農組合 (垂水市)	<ul style="list-style-type: none"> ①農作業受委託の体制強化や裏作としての菜種作付けの促進等により集落内の水田の高度利用を推進する体制づくり ②農作業受委託の活動周知や, 裏作としての菜種の作付け, 先進地視察研修の実施
原尾集落農地管理組合 (中種子町)	<ul style="list-style-type: none"> ①農地管理組合を中心とした地域の農地の計画的かつ効率的な活用体系の構築に向けた体制づくり ②農地台帳や農地マップの作成による農地利用状況の把握, イベント実施による地域活性化及び農地貸し手への働きかけ, 島内先進地視察研修の実施
サン奄美 (奄美市)	<ul style="list-style-type: none"> ①直売所を中心とした営農グループの組織化による農作物の安定出荷や新たな加工品開発の体制づくり ②営農グループの組織化に向けた検討や, 取り扱う農作物の検討・試作・実証

共生・協働の農村(むら)づくり運動で対象とする集落のイメージ



共生・協働の農村(むら)づくり運動 ～人と自然と地域が支え合うみんなで作る農村社会～

【むらづくりホームページ】

<https://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodou/nogyo/noson/mura/index.html>

県ホームページ→産業・労働→食・農業→農村振興

編集 鹿児島県農政部農村振興課

〒890-8577

鹿児島市鴨池新町10番1号

電話 099-286-3108

FAX 099-286-5589